

PCT/JP03/12795

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

06.10.03

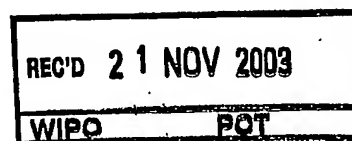
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2003年 7月29日

出 願 番 号
Application Number: 特願2003-309414
[ST. 10/C]: [JP2003-309414]

出 願 人
Applicant(s): 中里 修隆
中里 隆



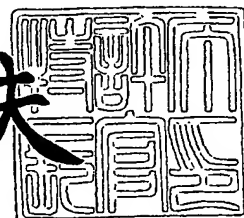
PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

BEST AVAILABLE COPY

2003年11月 7日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3092145

【書類名】 特許願
【整理番号】 2323232313
【提出日】 平成15年 7月29日
【あて先】 特許庁長官 今井康夫 殿
【発明者】
 【住所又は居所】 長崎県長崎市西山 3 丁目 3 1 - 3 6
 【氏名】 中里 修
【発明者】
 【住所又は居所】 長崎県長崎市西山 3 丁目 3 1 - 3 6
 【氏名】 中里 隆
【特許出願人】
 【識別番号】 591012897
 【住所又は居所】 長崎県長崎市西山 3 丁目 3 1 - 3 6
 【氏名又は名称】 中里 修
 【電話番号】 095-824-5234
【特許出願人】
 【住所又は居所】 長崎県長崎市西山 3 丁目 3 1 - 3 6
 【氏名又は名称】 中里 隆
 【電話番号】 095-824-5234
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】特許請求の範囲

【請求項 1】

既成の枕にない、巾と高さが自由自在に出来、頸・頭をサポートする枕を私・中里 修は登録実用新案第 3 0 8 1 1 5 5 号・特許公開 2 0 0 3 - 0 9 3 2 1 2 で提出したが、横臥（横寝）位などより仰臥（あお向け）位に移動した場合、横臥位など後の枕部に凹み（斜の状態もあり）の変形・歪が出来る状態を、頭の頭部を 2 分割する事により（頸の部を含め 3 分割）その枕中心付近が頸部の後・頭部の後に接する面中心付近と合わさる形となり、よりなじんだ状態となる事により横臥位等より仰臥位移動しても横臥位など後の凹みの変形・歪が枕に出来ない事を特徴とする頸・頭サポート枕。

【請求項 2】

また、頭部 2 分割（頸部を含め 3 分割）しても、人間千差万別・頸・頭の形状に対し完璧に調整できないため、特に弾力性がない素材（パイプ・もみがら等）は、頸・頭の圧で枕が沈んだり、中心方向に縮んだりのまま元に戻りにくいため、頸・頭サポート枕布裏下面（頸部は表面もあり）に一面ファスナーを取り付け、両外側縫い目部等に十面ファスナーを取り付けて、一面ファスナー部・十面ファスナー縫い目部を基点として、十面ファスナーを中心方向、外側方向に移動し、絞り、緩めを行う事により、沈んだり、縮んだり、広がったり等を調整し、より微調整をも出来る様に、十面ファスナーを付けた袋状小枕を、頸・頭部枕裏に付けた一面ファスナーに接着させ、小枕の床面部にあるファスナーより、素材の出し入れを行ない、微調整し、6 3 億人 6 3 億様の頸・頭により完璧に合う事をも可能とする頸・頭サポート枕。

【書類名】明細書

【発明の名称】頸・頭サポート枕

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

色々な寝姿体位、例・横臥位より仰臥位になった際、横臥位後の枕部に凹み等、変形・歪みが出来る状態・また、頸・頭の圧により枕が沈んだり、縮んだりする状態・形状として千差万別の頸・頭を、いかに自由自在より良き状態に調整するかの枕に関するものである。

【背景技術】

【0002】

人間の寝姿を側面より見る時、頭骨O、頸椎骨S字状になっていて、その形状にあった頸・頭のサポート枕があるが、固定されているか、高低を調整するだけの枕が従来の既製品（例えば、特許文献1参照。）・（例えば、実用新案文献1参照。）として販売されていたが、私・中里 修は高低を含め巾をも自由自在に出来て千差万別の頸・頭になじむ枕を考案提出（特許文献2参照。）・（実用新案文献2参照。）した。

【0003】

しかし、私・中里 修の登録実用新案・特許（公開）の枕でも弾力性がない素材（パイプ、もみがら等）では、頸・頭の圧が加わった後、元に戻らなく、色々な寝姿体位・例・横臥位より仰臥位になった際、横臥位後の枕部に凹み等の歪が出来、仰臥位で寝たつもりでも、仰臥位付近の枕頸部・頭部が変形し（枕の片側が凹んだり斜になったり等）寝づらい状況に落ち入る事があり、今まで1つの枕で微調整まで出来ない為に「全国調査すると5人に1人は睡眠に悩んでいます」（東京都小平市の国立精神・神経センター総長高橋清久氏：共同通信インタビュー平成14年4月12日新聞掲載）と言われる現状解決に対する方法として従来の枕をより改善出来てこなかった現実があると思われます。（枕だけでなく精神的ストレス等も考えられますが、枕が合わない、馴染むものがない為、眠れない状況が続くと、それが精神的ストレスを生む引き金になる1つの原因であることは充分に考えられます。）

【0004】

それに対して、既成枕（1つの枕で巾・高低を自由自在に出来ない）・特許庁先願調査（平成15年7月28日現在まで）でも満足いくものはなく、理論的・実際の市場でも、仲々より良い状態に戻る・完璧に微調整できる枕はなく、既成の枕専門店、寝具店の感想もその通りであった。

以下、図1、図2、図3により従来の既製品枕・図1、図1により私・中里 修の考案枕について説明する。

【特許文献1】 特許公報第2873019（第2頁、図1、図2）

【実用新案文献1】

登録実用新案公報第3011499号（第2頁、図1、図3）

【特許文献2】 特許公開2003-093212号公報（第1頁、図1、）

【実用新案文献2】

登録実用新案公報第3081155号（第1頁、図1、）

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

このような既存の頸・頭サポート枕、私・中里 修の登録実用新案第3081155号・特許公開2003-093212枕の問題点を解決する方法として、一つの枕で、いかに簡単に微調整までし得て、千差万別の人々が満足し頸・頭に馴染む頸・頭サポート枕を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

以上の課題を解決する為に、枕の頸部は1つの部、頭部を2つの部、合せて3分割する方法を考案し、頸・頭、例・仰臥位より、横臥（横寝）位した場合、分割した1つの山に横臥（側頭部）位で寝てから、又その後、仰臥位になった場合でも頭（後頭部）は左右分割2つの谷間（頸も合せて3分割）に戻る為に、横臥位であった枕部凹みの歪・変形はなくなり、また正常な仰臥位に戻る事が出来る形態となるが、頸・頭は客観的に見ても千差万別63億人63億様の形状のため又、重力により、頸・頭が少し下方に沈んでくるために、枕の接する面も沈んだり中心方向に縮んだりする調整の方法として、一面ファスナーを頸の部布裏両外側より（また中心より）・頭の部布裏両分割部中心より付け・十面ファスナーを頸部・頭部外側縫い目部等に取り付ける事により絞ったり、緩めたりして調整し、より微調整をも出来る様に十面ファスナーを付けた袋状小枕を、枕裏頸・頭部に付けた一面ファスナーに接着させ、小枕のファスナーより素材の出し入れを行い、自由自在な微調整まで可能とし、寝やすく出来る形態とする。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

発明の実施の形態を図面で参照して説明すれば、図1・図2・後頭部が接する枕部1a・1b、2つに分割して頸部が接する枕部3は1つの部分にしておく事により3分割となり1点を中心とする、より馴染みやすい おかま状、鍋状・窪み状4が出来る。図2仰臥位（a）・この状態より横臥位（b）移動し、その後また仰臥位（a）に移動しても、2分割中心部（頸部を含め3分割）2に、後頭部・頸部が来る為に横臥位（b）であった枕部に凹みの（c）変形・歪み5を残す事なく、なじみやすい窪み状4の枕部に仰臥位（a）を維持出来ることになるが、図1（a）・図2（a）（b）の如く、分割部は溝32が出来るため、その枕の溝に馴染まない人が僅かにいるので、馴染ませる方法として、図3（a）（c）枕カバー33に十面ファスナー34を付け、各人の頸・頭が枕分割部で馴染む窪みを決定したら枕上に枕カバー33を被せ、（b）頸部3、頭部1a・1bの枕裏、一面ファスナー35を付けた部（図1（b）22図11（c）（d）図12（a）（b）裏面20と兼ねるも可能。）に（c）枕カバー33の十面ファスナー34を接着させる事により、分割部の溝32に馴染ませる事ができる。

この事により、分割部の溝32に枕カバー33が固定され、頸・頭が枕に違和感なく、より馴染むようになる。（馴染む度合により、枕カバー33を重ねたり既成の枕カバーを重ねたりして応用できる。）

【0008】

しかし図4（a）（b）後頭部デコギみ6・後頭部平ギみ7・頸部が前弯ギみ8・頸部が後弯ギみ9 図5（a）（b）頸部の巾が短い10・頸部の巾が長い11（c）（d）頸間隔が細い12・頸間隔が太い13など、また頸部・後頭部・（e）（f）円周が実線14・円周が点線15の様に枕に接する面は千差万別で、その調整として図1 図4 頸部3、頭部1a・1b枕のファスナー16入口より、枕内の素材（もみがら・ポリエステル綿・スポンジ・パイプ等）の出し入れで行う事が出来るが、その中の弾力性なき素材（もみがら、パイプ等）の枕は図6（a）（b）（c）・重力により頸・頭の重さで枕が沈んだり17 中心方向に縮んだり18して来る現実がある。（重さ・接する形の頸・頭により千差万別）

その調整解決方法として、例・私・中里 修の特許公開2003-093212図1（a）（b）頸の部3布裏内側より一面ファスナー20を付け、外側縫い目部等に十面ファスナー21を付ける、頭の部1a・1bは 中心部2より一面ファスナー22を付け、外側縫い目部等に十面ファスナー23を付ける。

例えば図6（a）（b）（c）頸・頭の重さにより、枕が沈んだり17、中心方向に縮んだり18して枕が頸・頭に合っていない、馴染んでない等の感触があれば図7（a）（b）（c）図8（a）図9（a）十面ファスナー21、23を、より布裏 中心方向移動24することにより、絞り25が出て、枕の沈み17・縮み18が図7（a）（b）（c）図9（a）（b）外側方向に広がって26、上方27に引き上げられる事により弾力性なき素材（パイプ・もみがら等）でも反発力を得られる事と同じような状態となり、頸・頭

が枕に合った馴染む感触を得られる。しかし63億人・63億様の合う枕に思いを致す時、その微調整補助として、図10(a)枕裏頸部3、頭部1a・1bに一面ファスナー36を付け、図5(e)頭部・頸部円周が枕に当るぐらいの面積の図10(b)(c)ファスナー37を付けた袋状の小枕38に十面ファスナー39を枕本体裏面方向に向け付け、例図6(b)(c)よりも床面方向に、より沈み、縮む状況や、微妙な不具合状況などあれば図10(b)(c)袋状の小枕十面ファスナー39を(a)枕裏頸部・頭部一面ファスナー36に接着させ(b)(d)小枕ファスナー37より素材の出し入れを行ない、微調整上下40させる方法により、枕本体から素材出し入れをおこなわなくても調整でき、頸・頭部が枕本体接触面では違和感なく、より馴染む感触を得られる。(もちろん微調整は枕本体面ファスナーでの調整、ファスナー16よりの素材出し入れでも出来るし、弾力性有る無しに限らず全ての素材に可能である。)

【0009】

例としては「枕が沈む17・中心方向に縮む18」をとり上げたが、人間の頸・頭は図4(a)(b)図5(a)(b)(c)(d)(e)(f)にある如く、千差万別、63億人、63億様である為に、素材の出し入れをファスナー16より出し入れし、高低を調整したり 図6(a)(b)図7(a)(b)私・中里 修の特許公開2003-093212・登録実用新案第3081155号・(特許文献2・実用新案文献2図は外側部2ヶ所のみ図示)の巾・高低を調整する19・28・29・30を組み合せ、図9(b)4ヶ所(例・私・中里 修の特許公開2003-093212)19・28a・28b・28d・28cで絞り、えぐる様に頸すじ肩部に合せ馴染ませたり、図8十面ファスナー21・23を(b)外側方向移動31したり(a)中心方向移動24したり等々、色々と組み合わせて、千差万別63億人・63億様の頸・頭をサポートする事も可能とする。

【0010】

なお図9(a)私・中里 修の特許公開2003-093212(以下、特許公開と記載) 頸部3一面ファスナー20は外側よりにあるが、同じ特許公開 図1図8では一面ファスナー20が中心よりに付いていても図6(b)のように十面ファスナー19の上と布裏の間に十面ファスナー21を通す事は充分可能である。

しかし私・中里 修の登録実用新案第3081155号(以下、登録実用新案と記載)においては図4(a)図7(b)図11(a)一面ファスナー20が中心よりに付いても、十面ファスナー21は十面ファスナー29・30をまたいで一面ファスナー20に接着させる事も可能だが、十面ファスナー29・30を十面ファスナー21が押える形になるため、登録実用新案の特徴である、巾・高低を自由自在とする十面ファスナー29・30の脱着が悪くなる。

枕の沈む17、縮む18の比率は頭部1a・1bに比べ頸部3の面積が小さくとも、一面ファスナー20を付ける部位は図11(c)登録実用新案十面ファスナー29・30外側よりに付け、中心方向移動、外側方向移動の十面ファスナー21は短くても可能(特許公開も同じ)ではあるが、図11(b)登録実用新案の十面ファスナー29・30脱着を、より容易にする為の方法は、枕の外側A・B間をより長くする事により、一面ファスナー20を外側よりに付けても十面ファスナー21を長く出来るため接着に余裕(特許公開も同じ)が生れる。

【0011】

しかし実際の製作現場では材料(布・パイプ・十面ファスナーなど)経費が掛りすぎるので、他の方法(発明の原理は同じ)として図11(c)(d)図12(a)(b)の如く、一面ファスナー20を布表裏の外側よりに2ヶ所つけ、十面ファスナー21端の部位は片側縫い付け固定しないことで余裕が生まれ、表・裏2ヶ所の一面ファスナー20に接着させ、1ヶ所を基点として絞ったり(中心方向移動)・緩めたり(外側方向移動)を余裕もって行うことが出来るし、図12(a)(b)頸部3の外側にファスナー16を付けても、一面ファスナー20が表・裏2ヶ所とり付けられている事により、固定されていない十面ファスナー21が外しやすく、寝ている際、外側部に取り付けた場合のファスナー16の開閉がよりしやすく、より素材出し入れが出来やすくなる形態とする。(十面フ

ファスナーを使用しない発明の原理は同じ方法として、頸・頭部両外側縫い目に紐を取り付け裏面中央付近で結び、絞ったり緩めたりする事により中心方向移動・外側方向移動することが出来る。）

【発明の効果】

【0012】

以上の記載より明らかなように、枕を頸部1ヶ・頭部2ヶ合せて3分割する事により、千差万別の頸、頭に合った枕の窪みができ、横臥位等より、仰臥位に戻った場合でも、横臥位等の部位に歪み・変形等を残す事もなくなり、頸・頭部両側布裏に一面ファスナーを固定させ（頸部は布表面もあり）、十面ファスナーで絞ったり、緩めたり移動する事により簡単に調整も出来、十面ファスナーをつけた小枕を枕本体裏面にある一面ファスナーにとりつけ、小枕ファスナーより素材を出し入れする事により、僅かな微調整をも可能となり巾・高さをより自由自在にできる。また私・中里 修の登録実用新案第3081155号・特許公開2003-093212（先願調査では巾・高低を自在に調整できる枕は見当らない）を組み合わせる事により、63億人63億様の頸・頭の形状に、1つの枕でより簡単、自由自在に合せることが出来るようになり、目覚め爽やか、より快適な睡眠を得られる効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】（a）この発明の実施の形態を示した平面（表）図である。（b）この発明の実施の形態を示した平面（裏）図である。

【図2】（a）この発明の実施の形態を示し、後頭部2分割した枕に仰臥位した上方（頭頂）より見た縦断面図である。（b）この発明の実施の形態を示し、後頭部2分割した枕に横臥位した上方（頭頂）より見た縦断面図である。（c）人間を枕に寝せ横臥位等であった部位に歪み、変形等が残った上方（頭頂）より見た縦断面図である。

【図3】（a）この発明の実施の形態を示した平面（内）図である。（b）この発明の実施の形態を示した平面（裏）図である。（c）この発明の実施の形態を示した上方（頭頂）より見た縦断面図である。

【図4】（a）人間を登録実用新案第3081155号の枕に、頸・頭を乗せた側面図である。（b）人間を特許公開2003-093212の枕に、頸・頭を乗せた側面図である。

【図5】（a）（b）（c）（d）（e）（f）人間の頸・頭の平面図である。

【図6】（a）この発明の実施例を示した斜視図である。（b）この発明の実施例を示した側面図である。（c）この発明の実施例を示した上方（頭頂）より見た縦断面図である。

【図7】（a）この発明の実施例を示した斜視図である。（b）この発明の実施例を示した側面図である。（c）この発明の実施例を示した上方（頭頂）より見た縦断面図である。

【図8】（a）（b）この発明の実施例を示した平面（裏）図である。

【図9】（a）（b）この発明の実施例を示した斜視図である。

【図10】（a）この発明の実施の形態を示した平面（裏）図である。（b）この発明の実施の形態を示した斜視図である。（c）この発明の実施の形態を示した平面（表）図である。（d）この発明の実施の形態を示した上方（頭頂）より見た縦断面図である。

【図11】（a）（b）（c）この発明の実施の形態を示した頸部、頭部左部分の平面（裏）図である。（d）この発明の実施の形態を示した頸部、頭部左部分の平面（表）図である。

【図12】（a）この発明の実施の形態を示した上方（頭頂）より見た縦断面図である。（b）この発明の実施例を示した上方（頭頂）より見た縦断面図である。

【符号の説明】

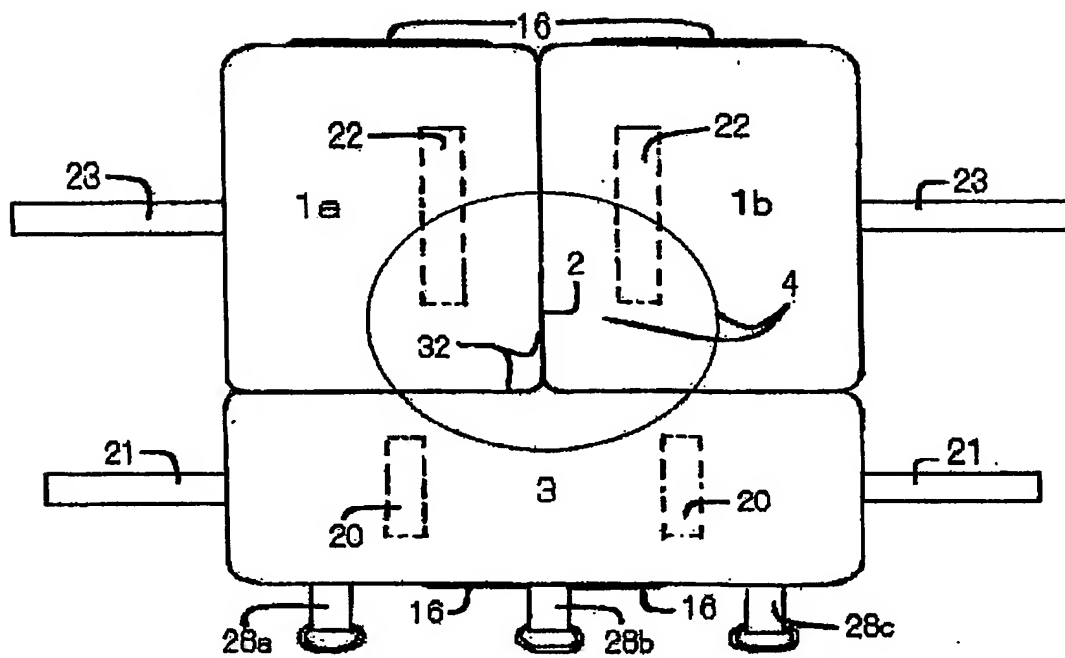
1 a、後頭部 右

- 1 b、後頭部 左
- 2 2 分割の中心部 (頸部を含め 3 分割)
- 3 頸部
- 4 おかま状、鍋状、窪み状
- 5 変形、歪み
- 6 後頭部デコぎみ
- 7 後頭部平ぎみ
- 8 頸部が前弯ぎみ
- 9 頸部が後弯ぎみ
- 1 0 頸部の巾が短い
- 1 1 頸部の巾が長い
- 1 2 頸間隔が細い
- 1 3 頸間隔が太い
- 1 4 円周が実線
- 1 5 円周が点線
- 1 6 ファスナー
- 1 7 枕が沈む
- 1 8 枕が中心方向に縮む
- 1 9 特許公開 2 0 0 3 - 0 9 3 2 1 2 枕の - + 面ファスナー
- 2 0 - 面ファスナー (頸部)
- 2 1 + 面ファスナー (頸部)
- 2 2 - 面ファスナー (頭部)
- 2 3 + 面ファスナー (頭部)
- 2 4 中心方向移動
- 2 5 絞り
- 2 6 外側方向に広がる
- 2 7 上方
- 2 8 特許公開 2 0 0 3 - 0 9 3 2 1 2 枕の短い布に付けた輪
- 2 9 登録実用新案第 3 0 8 1 1 5 5 号枕の + 面ファスナー
- 3 0 登録実用新案第 3 0 8 1 1 5 5 号枕の - 面ファスナー
- 3 1 外側方向移動
- 3 2 分割部の溝
- 3 3 枕カバー
- 3 4 枕カバー + 面ファスナー
- 3 5 枕裏 - 面ファスナー
- 3 6 - 面ファスナー (枕裏頸部・頭部)
- 3 7 ファスナー (小枕部)
- 3 8 袋状の小枕
- 3 9 + 面ファスナー (袋状の小枕部)
- 4 0 微調整上下

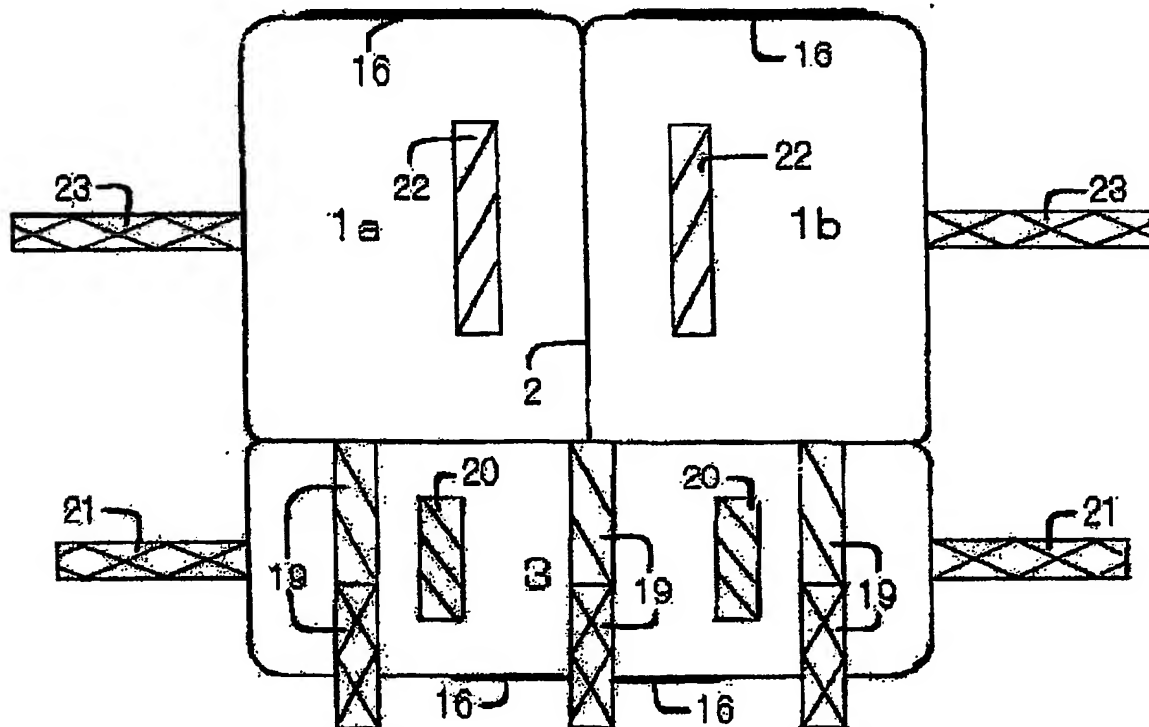
【書類名】 図面

【図 1】

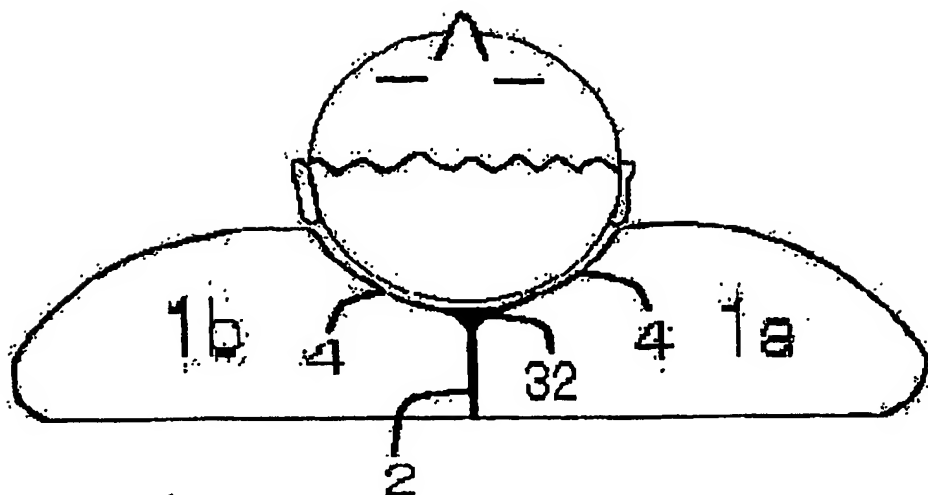
(a)



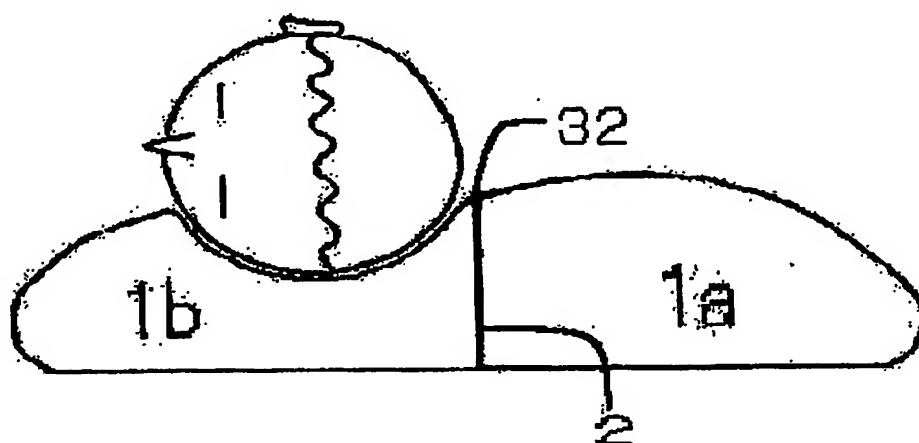
(b)



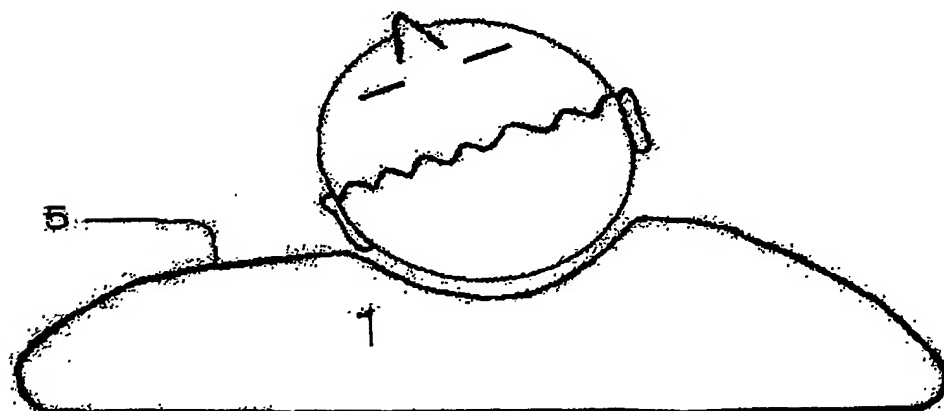
【図2】
(a)



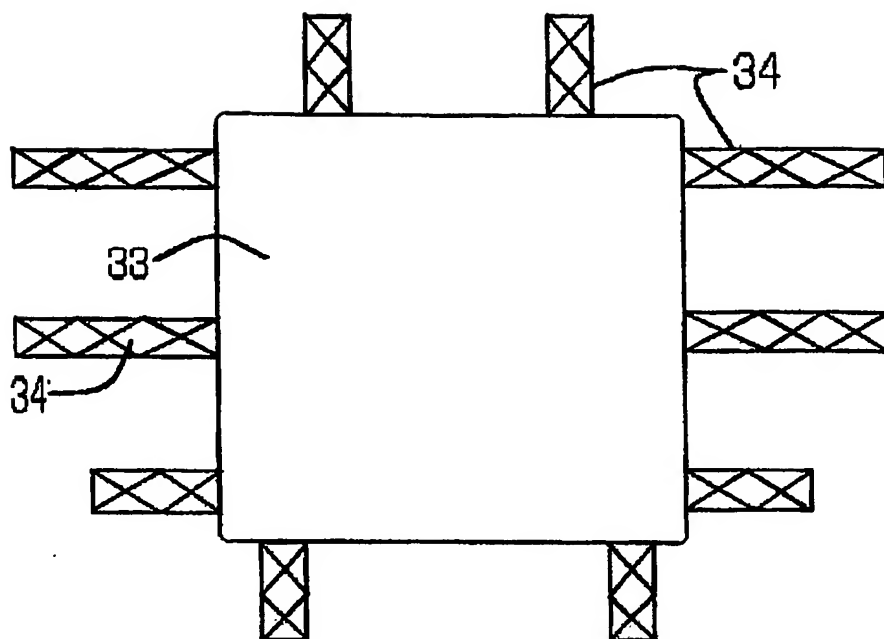
(b)



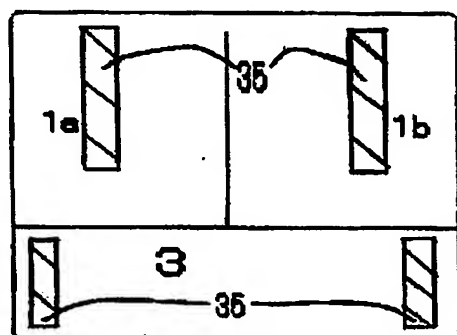
(c)



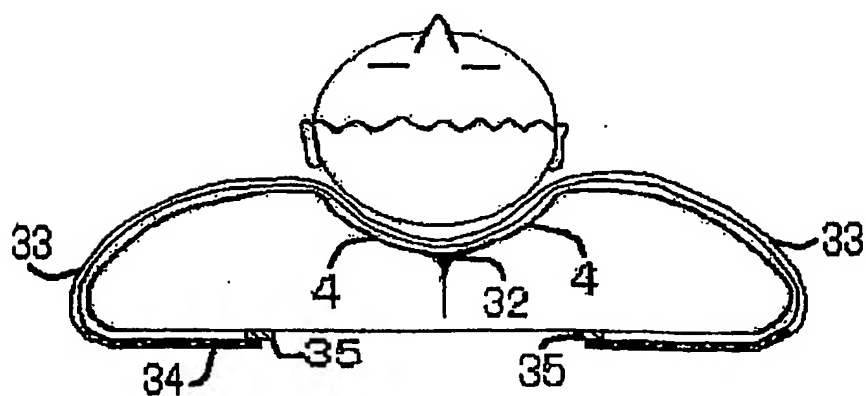
【図 3】
(a)



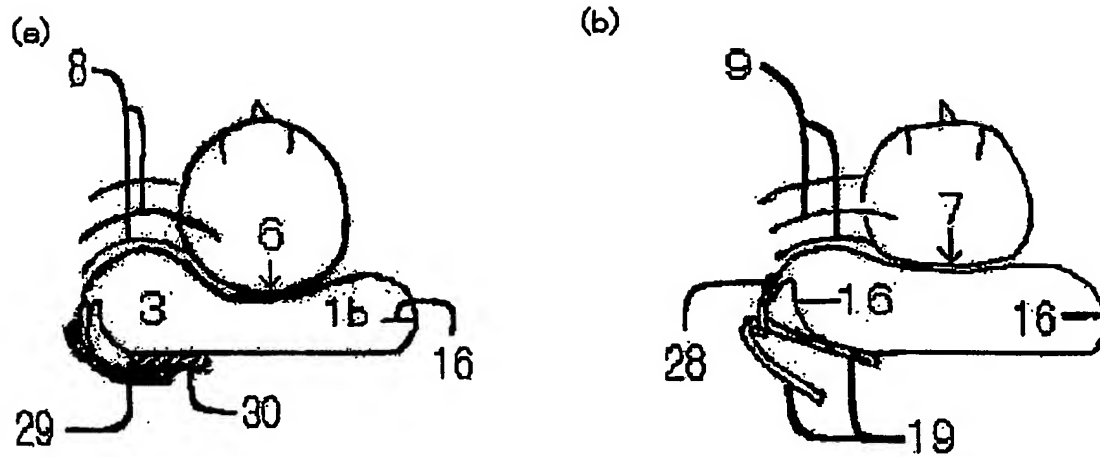
(b)



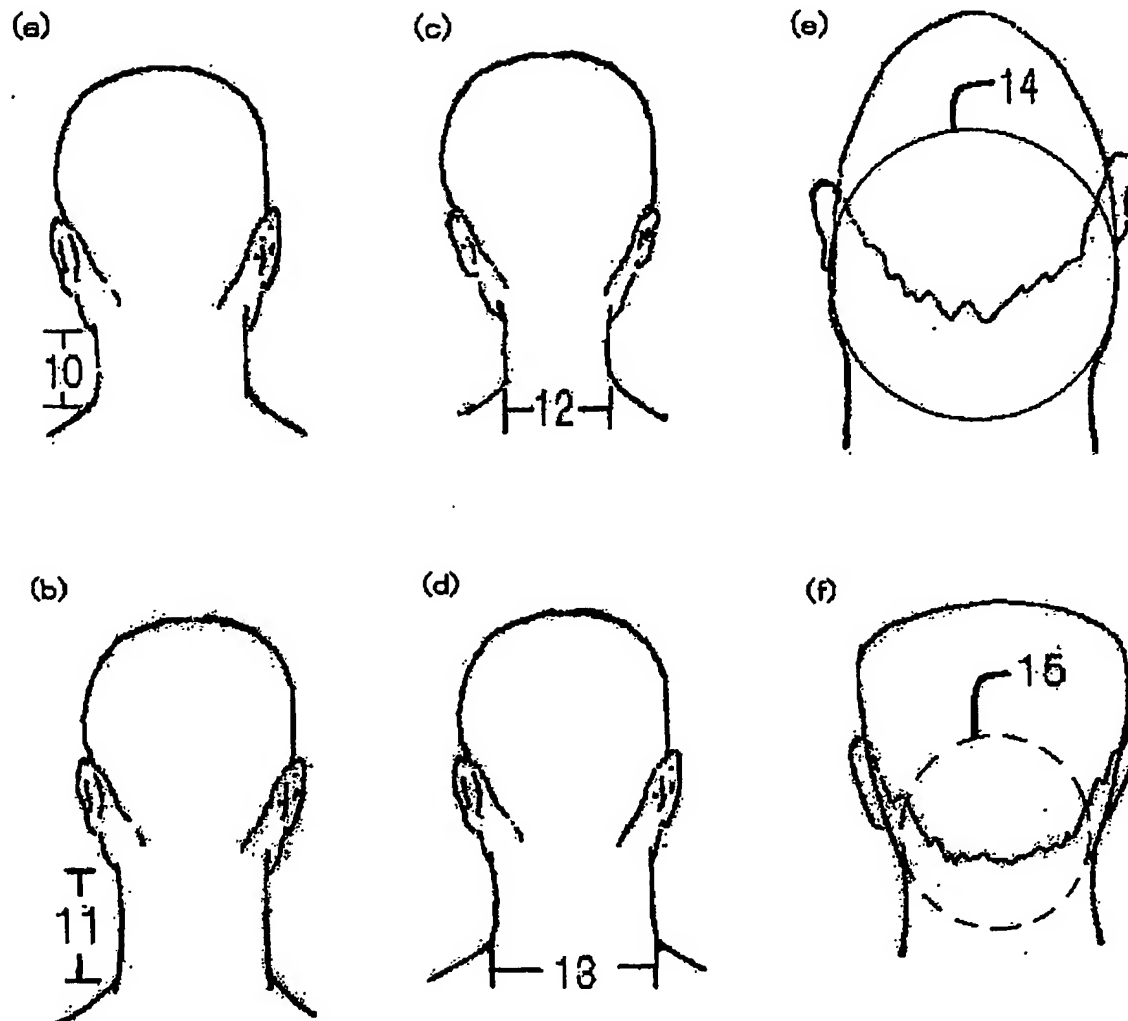
(c)



【図 4】

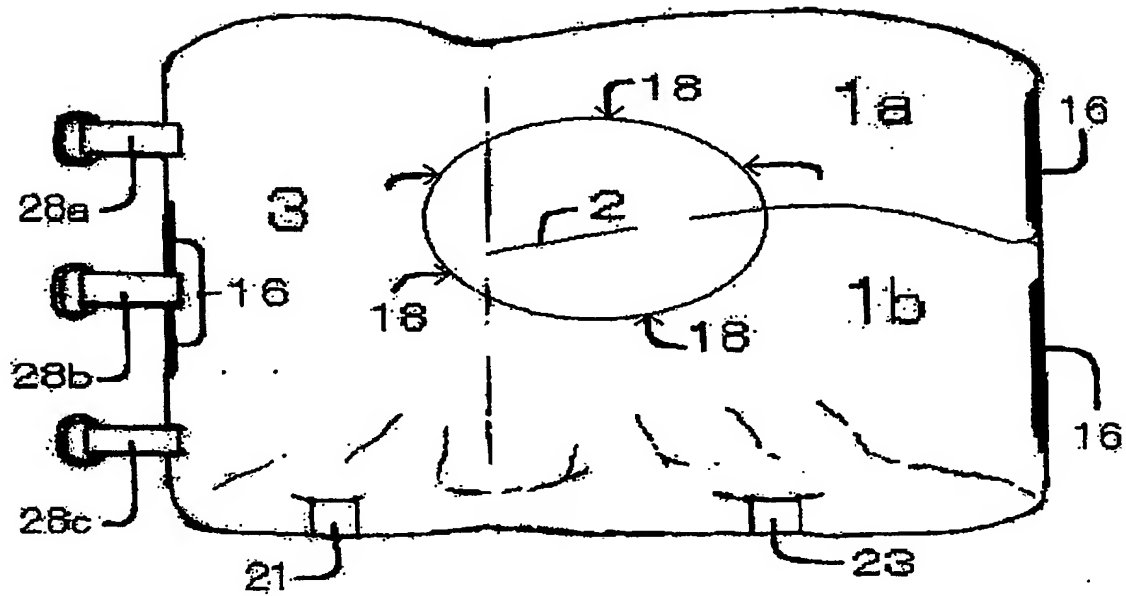


【図 5】

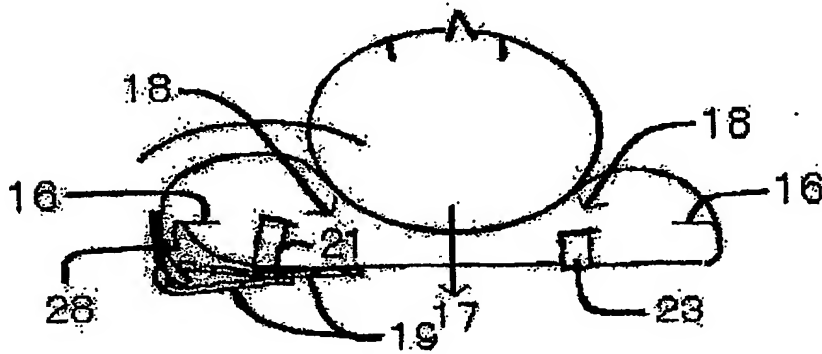


【図 6】

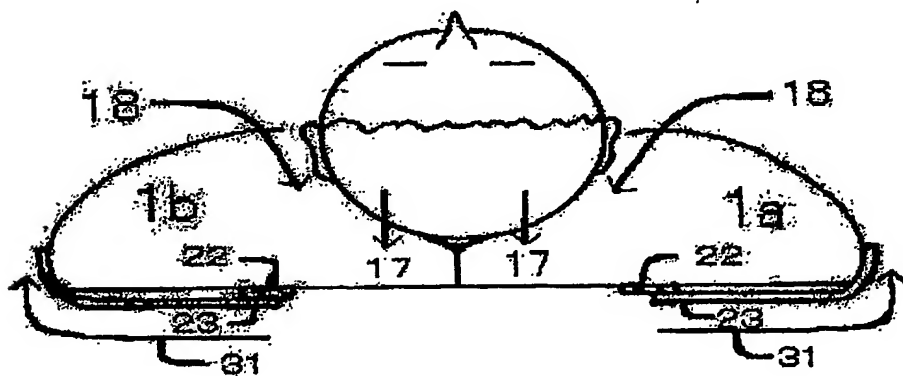
(a)



(b)

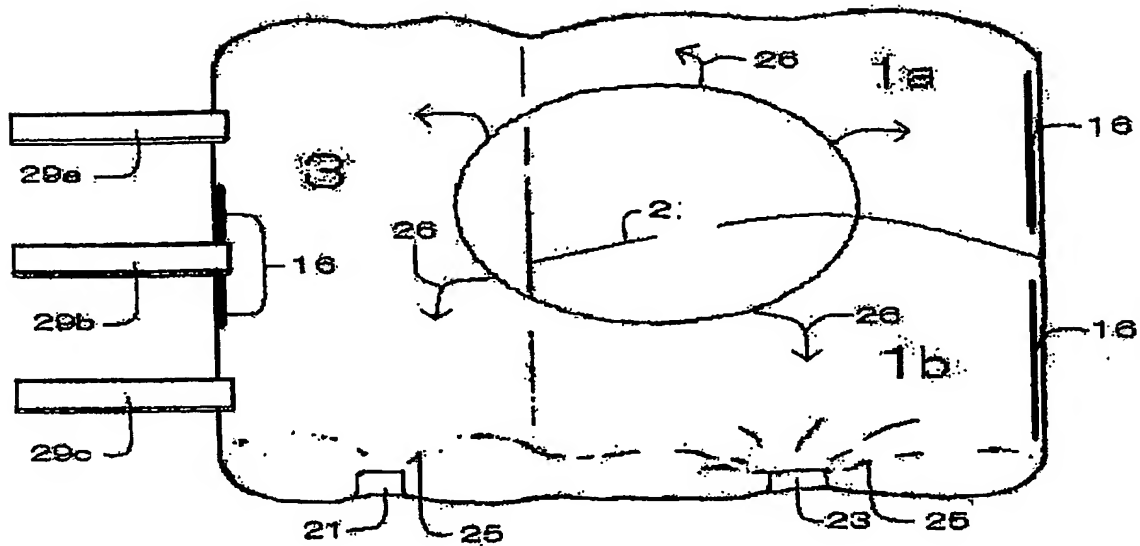


(c)

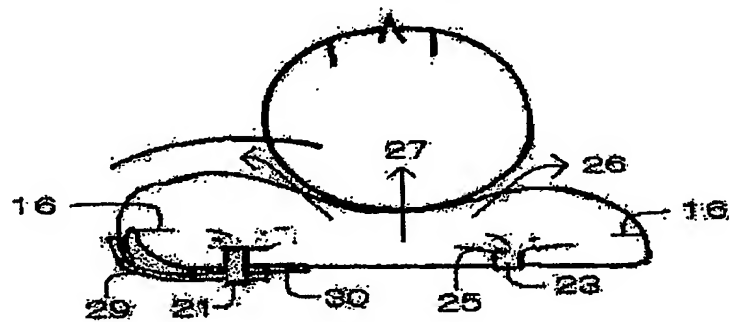


【図7】

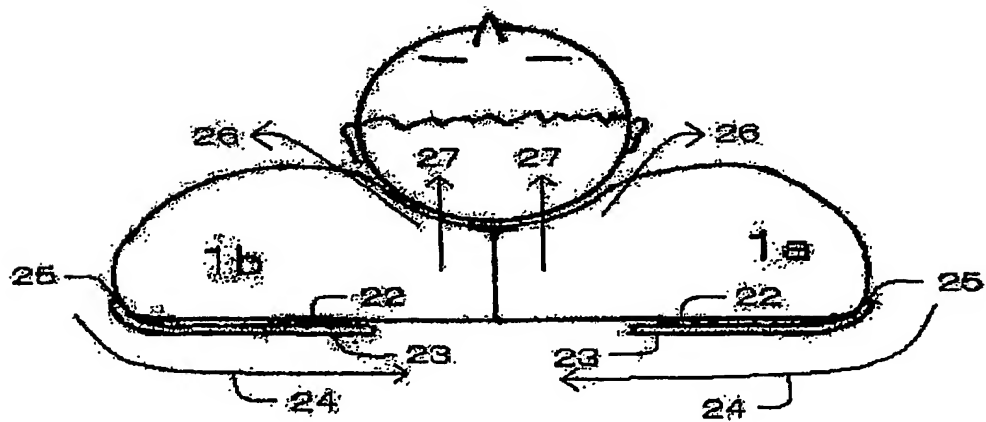
(a)



(b)

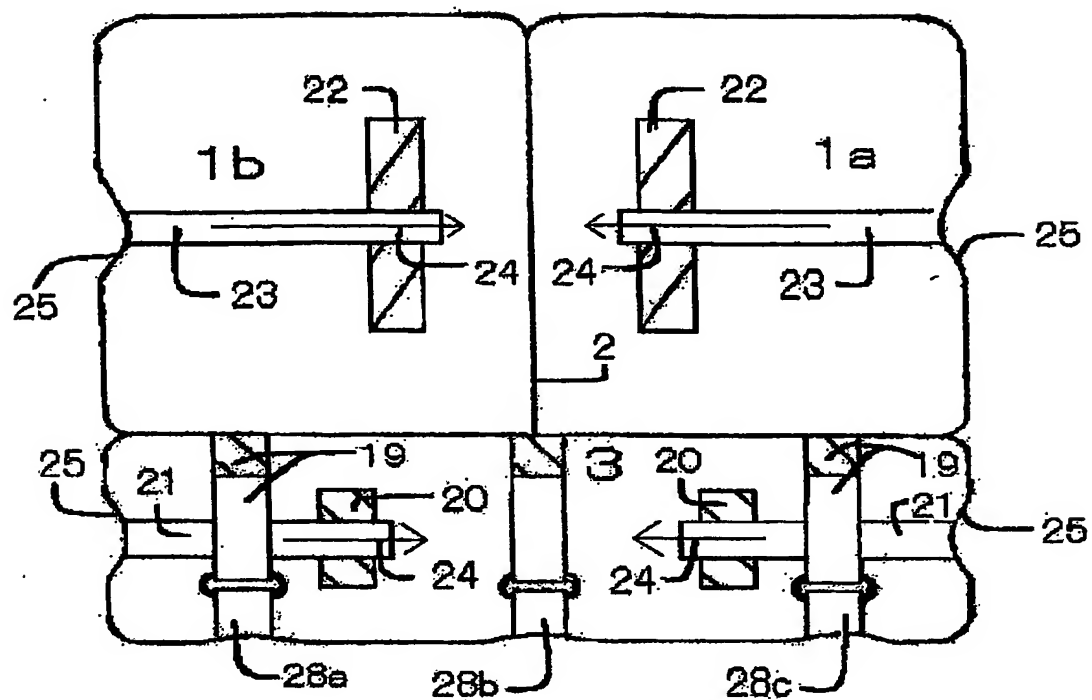


(c)

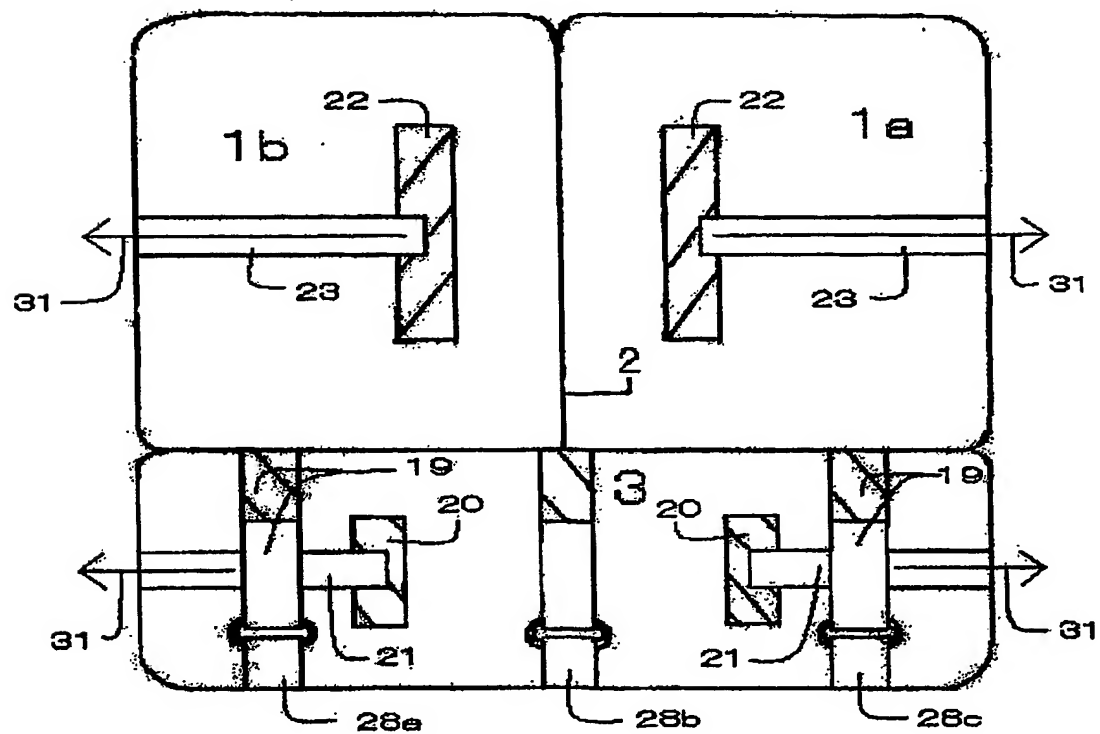


【図 8】

(a)

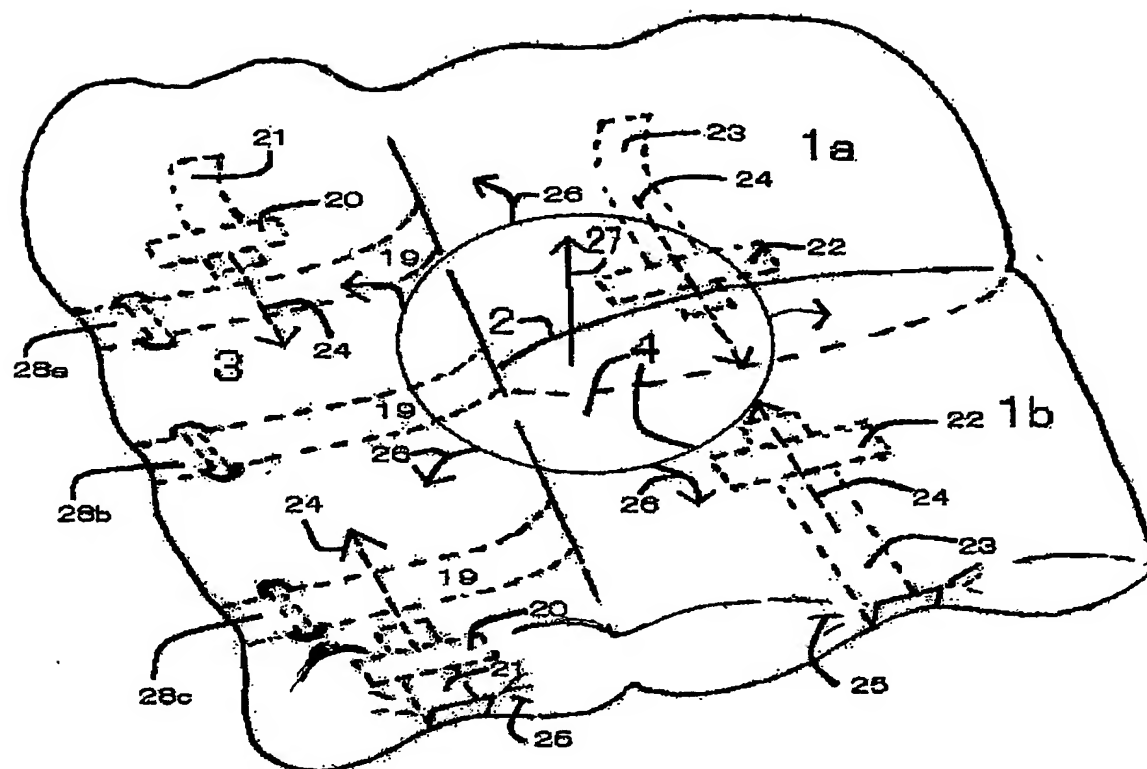


(b)

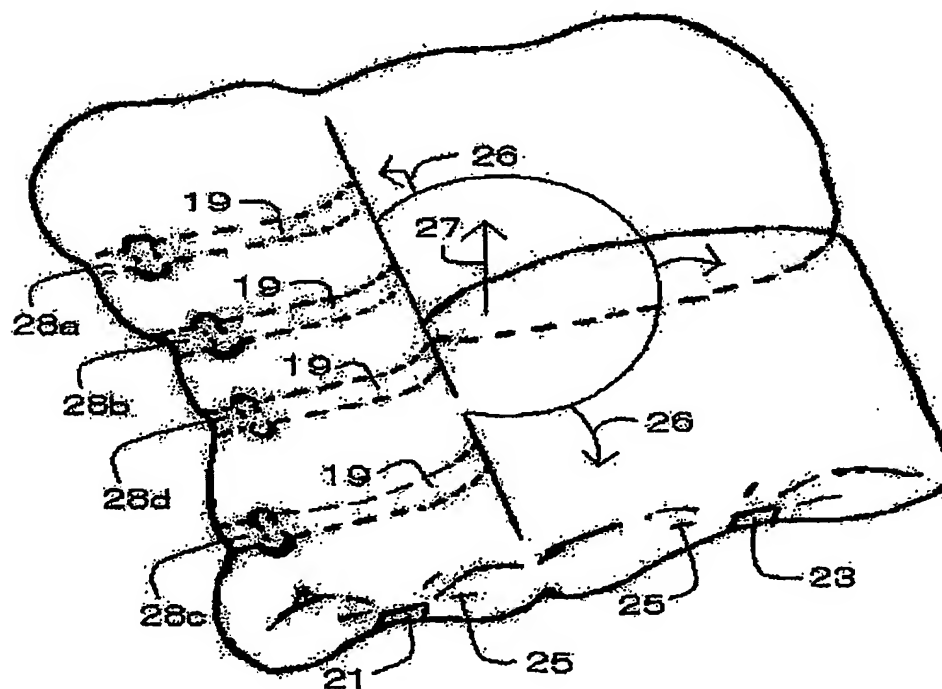


【図9】

(a)

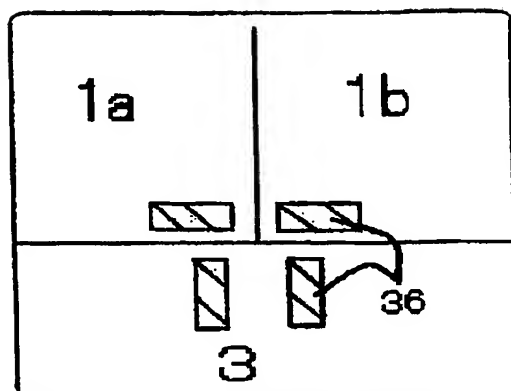


(b)



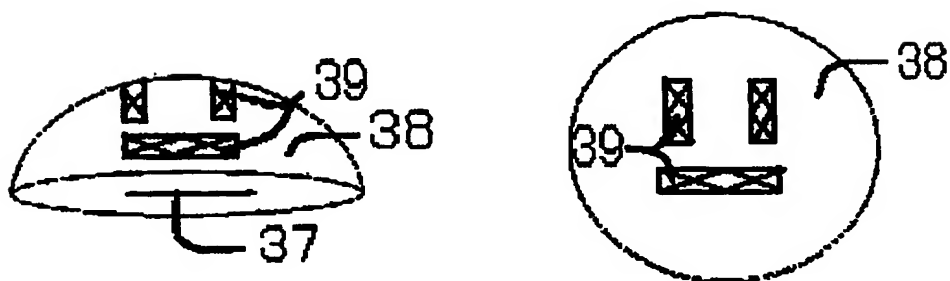
【図 10】

(a)

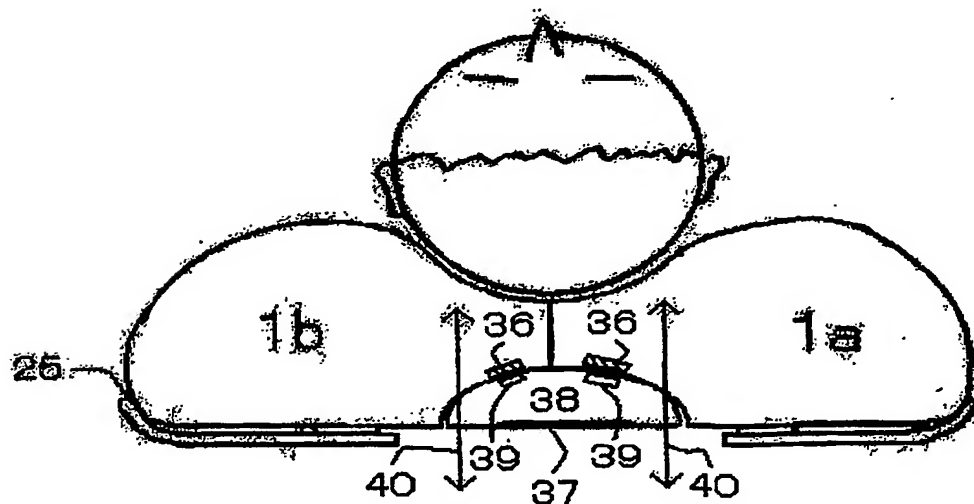


(b)

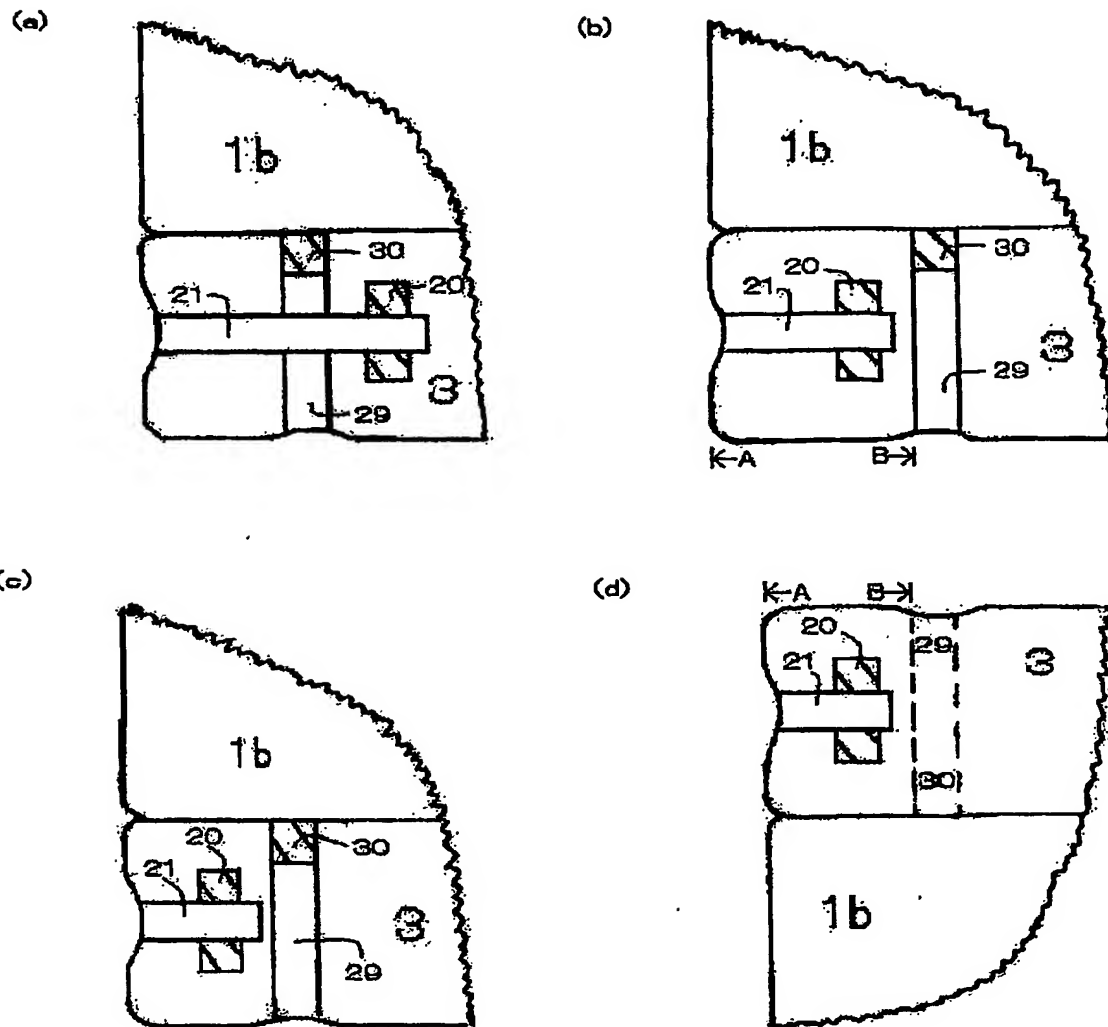
(c)



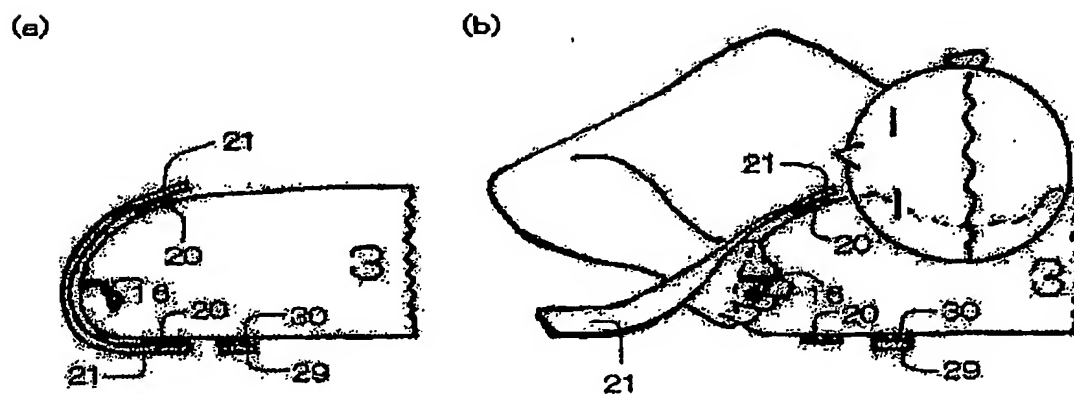
(d)



【図 11】



【図 12】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 巾・高低を自由自在に出来る枕を、登録実用新案第3081155号・特許公開2003-093212で提出したが、例：横臥位より仰臥位に戻ると、横臥位であった部に变形・歪みが出来、また弾力性なき素材（もみがら・パイプ等）は、頸・頭の重さで枕が沈み・中心方向に縮むのを、まだ完璧に調整出来ない。

【解決手段】 枕の頸部は1つ・頭部は2つに分割（計3分割）し、横臥位より仰臥位に移動しても3分割の窪みに頸・頭が入る為に横臥位にあった部に变形・歪みを残すことがなくなる。

また一面ファスナーを頸・頭部、枕布裏に付け、十面ファスナーを頸・頭部外側縫い目部等に取り付け、布裏面中心方向移動・絞ることにより枕の沈み・縮みが、外側方向に広がり上方に上がり、弾力性なき素材でも反発力を得られる事と同じ状態となり、千差万別の頸・頭の形状に面ファスナーを応用し、微調整も出来、頸・頭に馴染む形態とする事により解決手段とする。

【選択図】 図9

特願 2003-309414

出願人履歴情報

識別番号

[591012897]

1. 変更年月日

1990年12月24日

[変更理由]

住所変更

住 所

長崎県長崎市西山町3丁目371-7

氏 名

中里 修

2. 変更年月日

2001年 6月11日

[変更理由]

住所変更

住 所

長崎県長崎市西山3丁目31-36

氏 名

中里 修